

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

設立財団ニュースレター

Vol. 23

2021年 5月 10日発行

■ 2021年度(令和3年度)の活動について ■

前年度(2020年度)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当初計画された事業、特に教育機関の計画策定のための教育実践事業が大きな制約を受けました。一方で野生生物をめぐる様々な問題は全国でさらに深刻化しており、保護管理システムの構築とそれを担う人材養成は急務となっています。コロナ禍の今後の推移が見通せない中ではありますが、今年度も「知床ネイチャーキャンパス」を中心とした教育実践活動と、教育機関設立の準備活動を継続して参ります。

「知床ネイチャーキャンパス」では、専門職養成のためのプログラムに限らず、実際に野生生物の保護管理を担当されている国や自治体の職員を対象としたリカレントプログラムも行う予定です。また、広く一般の皆様を対象とした「知床ネイチャートーク」では、テーマを設定した連続講座として開催する計画です。

2021年度もウイルス感染症拡大防止のため、当面の間はオンラインやWebを活用した活動となりますが、

国内の状況を見定めながら、現地集合が必要な実習プログラムの可能性も検討し、可能であれば再開して行く所存です。

一方、昨年度発足した国の「野生動物管理教育プログラム検討会」では専門の人材養成のためのコアカリキュラムの策定が進められています。さらに今年度は各大学での履修体制の検討や認定制度の検討が進められる予定です。この検討会には当財団の役員や専門委員が検討委員として参画しており、当財団の活動成果も参考にされています。各大学でのコアカリキュラムの履修開始は2023年を予定していますが、現場教育を中心とした知床での教育体制構築を進めることで人材養成体制の一翼を担うことが期待されています。

2021年度は、諸情勢の推移も見ながら、目的に沿った事業展開を進めていきますので、皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

業務執行理事・中川 元



2019年度の知床ネイチャーキャンパス・実習



2019年度の知床ネイチャーキャンパス・オープンキャンパス

■□■ 知床ネイチャーキャンパス・ネクストを開催しました ■□■

当財団は、2021年3月13～14日、オンライン教育プログラム「知床ネイチャーキャンパス・ネクスト」を開催しました。これまでのネイチャーキャンパスは、科学的な野生生物保護管理の先進地である世界自然遺産・知床を舞台に、講義や野外実習、グループワークを行ってきましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、現地に集合するプログラムは中止としました。それでも、この分野の第一線で活躍する先生方によるオンライン講義と、受講生による活発なディスカッションで充実した学びの時間となりました。

テーマ『生物多様性を守るために』-科学的保護管理を考える-

主催：公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

開催月日：2021年3月13日（土）、14日（日）

開催方法：オンライン開催（Zoomを使用）

参加者：受講生27名

講師（敬称略）：齊藤 慶輔（猛禽類医学研究所代表・獣医師）

早矢仕有子（北海学園大学工学部教授）

梶 光一（東京農工大学名誉教授）

中村 太士（北海道大学大学院農学研究院教授）

敷田 麻実（北陸先端科学技術大学院大学教授）

鈴木 正嗣（岐阜大学応用生物科学部教授）

中川 元（知床自然大学院大学設立財団業務執行理事）



プログラム日程

月日	時間帯	時:分	プログラム	講師
3月13日 (土)	13:30~13:40	0:10	挨拶・趣旨説明	(主催者)
	第1部 絶滅危惧種の保護=人に影響される生息環境=			
	13:40~14:10	0:30	講義1 絶滅危惧種の保護制度・保全活動の概要	中川 元
	14:20~15:10	0:50	講義2 オジロワシ・オオワシ保護の現状と課題	齊藤慶輔
	15:20~16:10	0:50	講義3 シマフクロウ保護の現状と課題	早矢仕有子
	16:20~16:50	0:30	第一部の質疑とディスカッション	講師と参加者
	16:50~17:00		一日目終了	
3月14日 (日)	第2部 科学的保護管理とは=世界遺産地域から全国へ=			
	13:00~13:50	0:50	講義4 増えすぎた動物の個体群管理	梶 光一
	14:00~14:50	0:50	講義5 生物多様性を守る河川管理	中村太士
	15:00~15:50	0:50	講義6 利用と保護のマネジメント	敷田麻実
	16:00~16:20	0:20	講義7 野生動物保護管理システムと必要な人材	鈴木正嗣
	16:20~17:00	0:40	第2部の質疑とディスカッション	講師と参加者
	17:00~17:05		全日程終了 挨拶	(主催者)

3月13日 (土) 第1部 絶滅危惧種の保護＝人に影響される生息環境＝

講義1 絶滅危惧種の保護制度・保全活動の概要 中川 元 理事

絶滅危惧種の定義に始まり、種の保存法やレッドリストなど、絶滅危惧種に関する法律や制度について解説しました。現在行われているシマフクロウやオオワシ、オジロワシの保護増殖事業についても解説し、プログラム冒頭に、今後の講義を聞く上で大切な基礎知識を学びました。

講義3 シマフクロウ保護の現状と課題 早矢仕 有子 先生

道内でも限られた場所でしか生息できないシマフクロウ保護の歴史や現状、人との関わり方を中心とした問題点などを解説いただきました。営巣地への侵入防止や生態を広く知ってもらうための、Webによる新たな取り組みもご紹介いただき、たくさんの質疑応答がなされました。

講義2 オジロワシ・オオワシ保護の現状と課題 齊藤 慶輔 先生

猛禽類医学研究所代表・獣医師として、長年希少猛禽類の保護に従事する経験から、保護の現状と課題のほか、保護活動に向き合う大切な考え方について解説いただきました。交通事故や列車事故、感電死などを防ぐために、多くの機関と協力関係を築く取り組み事例などをお話しいただきました。

両日とも、講義の後に、各講師と受講生による質疑とディスカッションを実施しています。

3月14日 (日) 第2部 科学的保護管理とは＝世界遺産地域から全国へ＝

講義4 増えすぎた動物の個体群管理 梶 光一 先生

40年にわたる洞爺湖中島や知床岬での研究から、エゾシカの爆発的増加や崩壊、対策としての個体数管理の現状について解説。自然調節プロセスだけではシカによる森林植生への影響を緩和できないことなど、科学的データに基づいた長年の研究成果をお話しいただきました。

講義6 利用と保護のマネジメント 敷田 麻実 先生

世界自然遺産知床の管理体制、知床エコツアーリズム戦略を事例に、マネジメントとは何か、コントロールとは違うマネジメントの目的や手法などを噛み砕いて説明していただきました。マネジメント＝「矛盾する要素の調整」の下に、適切な利用と保護が存在する仕組みを解説していただきました。

講義5 生物多様性を守る河川管理 中村 太士 先生

自然のリズムを崩さないことや順応的管理が重要となる河川管理の考え方のほか、サケ科魚類の遡上を妨げていた知床の河川工作物の改良事例を紹介いただきました。カラフトマスやサクラマスの産卵状況の変化など、世界自然遺産登録後の改良による成果を解説いただきました。

講義7 野生動物保護管理システムと必要な人材 鈴木 正嗣 先生

現在内容が検討されている「野生動物管理学コアカリキュラム」についてや、育てるべき人材の明確化、教育体制の構築、出口（就職先）の確保など、この分野の教育に必要な各種課題を解説いただきました。受講生の興味関心が高く、必要な能力についてなど活発な質疑がなされました。

受講生からのアンケート結果より

今回の受講生27名のうち、23名からアンケートのご協力をいただきました。集計結果の概要や自由回答の一部をご紹介します。

参加を決めた理由で1番多かったのが「講義内容に魅力があったから」。次いで「知床に興味があったから」「講師陣に魅力があったから」が続きました。例年のネイチャーキャンパスと同様に、講義内容や講師陣の魅力とともに、知床への興味が参加を促したようです。

2日間ともすべての講義とディスカッションをオンライン（Zoom使用）で行いましたが、受講生の9割近くが「すべてスムーズに受講できた」と回答しています。「受講しにくい講義があった」の理由は、「ネット環境の問題か、ところどころ音声聞き取りづらかった」「顔出しで講義を受けていると予想以上に体が疲れてしまうので、もう少しこまめに休憩があると嬉しかった」と回答がありました。

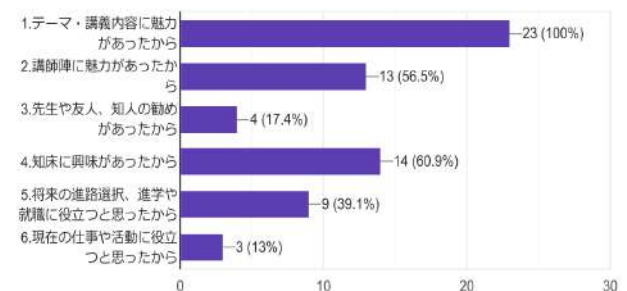
質疑については、34.8%が「希望した質問ができた」、47.8%が「特に質問したいことがなかった」、13%が「質問したかったができなかった」、4.4%が「質問はできたが、質問意図に対する回答は得られなかった」でした。

「質問したかったができなかった」理由は、「時間が限られており質問者が多かったため」「出先で声が出せなかったため」「質問したいことがあったが、勇気がなかったため」と回答がありました。時間の制限がある中で、受講生の満足のいく質疑を行うための工夫が必要と感じる結果になりました。

今回は「ネクスト」ということで、当初過去のネイチャーキャンパス受講生を対象としていましたが、過去の参加経験有りが30.4%、初めての参加者が69.6%となりました。なお、今回は定員を越えた応募があったため、希望者には後日講義やディスカッションの模様を録画配信しています。

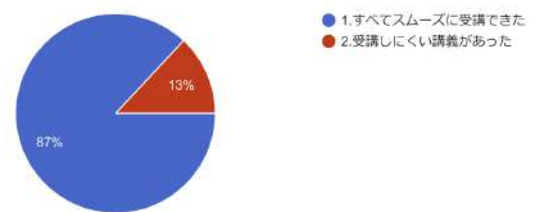
Q2.参加を決めた理由は何ですか？（複数回答可）

23件の回答



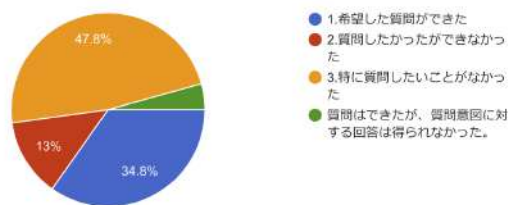
Q7-1.オンラインでの講義はスムーズに受講できましたか？

23件の回答



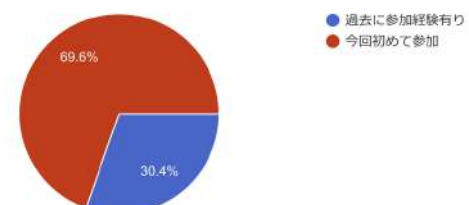
Q8-1.質疑についてお聞きします。希望した質問はできましたか？

23件の回答



Q17.過去のネイチャーキャンパスの参加について教えてください。

23件の回答



自由回答欄の声から

■印象に残った講義とその理由をお書きください。

梶先生および中村先生の講義で、特に科学的な裏付けをとってそれを実践的な管理に結び付けていくことの重要性を学ぶことができました。早矢仕先生の講義を初めて伺ったのですが、シマフクロウの特徴的な繁殖生態と、それにつながる個体数を増やすことの難しさ、そして先生方の問題解決の取り組みについて興味深く拝聴しました。

どの講義も興味深いもので、現状の知床を中心とした野生動物へのアプローチなどを知ることができて楽しかったです。強いて挙げるとすると、個人的には早矢仕先生のシマフクロウの調査やこれまでの経緯などを知ることができて面白かったです。

敷田麻実先生の講義。controlとmanagementの捉え方を身近な例に落とし込み説明していただき、理解しやすかったです。利用と保全の矛盾を調整する意味を持つ野生動物管理に求められるものは生態学だけでなく多面的、柔軟な考えであり自分に必要なものを改めて考えるきっかけとなりました。

敷田先生の講義中のマネジメントのお話で自分が持っていたマネジメントのイメージがかなり曖昧だったことが判明し、それに関するお話が特に印象に残りました。また早矢仕先生のシマフクロウウォッチャーに対する対応や観光業界との兼ね合いについてのお話では、自然のための行動のみを考えることができない歯痒さを感じました。

猛禽類専門獣医の先生である齊藤先生のお話が特に印象に残りました。小学生の頃に先生の本を読んで懂れていました。運び込まれた猛禽類の生存率が高だけでなく、事故を起こす原因のなる元栓を閉めるべく、幅広く活動されていることに感銘を受けました。

齊藤先生の講義。オオワシなどの保護に向け、獣医としての治療だけでは不十分だと考え、鉛弾や列車、電線事故などの社会的問題に対しても、科学的な視点とデータを用いて社会と折り合いをつけるような取り組みをしていたから。私は熱帯雨林の減少に関心があり、理系であるが、科学的な面だけでなく社会的な面からも関わらべきだと思っている。そのため、具体的に科学者がどのように社会問題に対してアプローチをしていくのかについて学べてよかった。また、「保護」という概念は動物愛護と似ていて、私は野生動物や環境を保全したいという考えは社会的に押し通してもいい(正しい)ことなのかと悩むことが時々あった。そこで、齊藤先生は「保護」と「動物愛護」は切り離して取り組まなければいけないときっぱりと仰っていて、とても納得し、自分の中でスッキリした。

鈴木先生の講義で野生動物保護管理をコアカリキュラムにしようとしている話も印象に残った。そのような話は初めて聞いた。私は森林科学科で野生動物保護管理や自然保護に関して学んでいるが、仕事としてこの分野を学んでいた人を特別に募集する枠はあまりない印象がある。そのような分野において資格などで認定されると、生物多様性が重要視される現在やこれからの社会で、人材の需要に適切に応じられるようになるなどと思い、この話は急速に進んでいってほしいと思ったから。

■野生動物保護管理を学ぶ高等教育機関について、要望や期待することがありましたらお書きください。

野生動物を知る事だけでなく、知ったことをアウトプットできること、また、コミュニティに現状を知ってもらおう事など、コミュニケーションが必要になる場面がこれから多々出てくると思います。その中で正しい情報、また、地元の人たちとのコンセンサスや地元の人同士での相互理解なども、必要になると思いますので、その部分を少しでも伸ばすことができる教育プログラムが必要になるのかなと思っています。

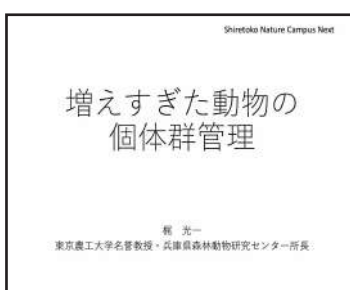
専門的な生態学から社会学まで多面的な講義と実践的な実習

野生動物保護管理は野生動物と人の軋轢を減らすだけでなく社会問題や経済とも複雑に関連しているため、それらの問題解決に必要な能力を身につける場にもなれば良いと思う。

野生動物の保全の課題を解決するための実践的なプロジェクトなどを学生でする機会があれば、より問題を身近なものとして捉えることができるのではないかと思います。また、考え方に偏りが出ないように、敷田先生が講義されていたような管理そのもののことを同時に学べると良いのではないかと思います。

講義の中で、就職先は増えてきているものの多くはないというような印象を受けたので、輩出した人材同士が蹴落としあうような高倍率の就職戦争とならないよう、就職に関するサポートをしっかりと行える体制を築いてほしい。

野生動物保護管理の中でも様々な分野があると考えます。その多様な考え方や現状、課題解決のことを学ぶ機会（教えられる人材）がもっと増えてくれたらと思っています（教えられる人材を全体的に増加させる方向になれば、研究職を目指すドクターや研究員の方の就職口増加にもなると考えます…）。



■全体を通しての感想・意見・要望などありましたら自由にお書きください。

知床での野生動物管理や生態保全、システムづくりへの積極的な取り組みを知ることができる非常に刺激的な機会でした。

野生動物保護管理について学び、興味を持つ人が集まる場がなく今回参加することができ感謝しています。より多くの方が野生動物保護管理に興味を持ち学ぶことができる場の設立に期待しています。

私にとって知床は遠い存在でした。しかし今回の講義を通して、とても面白い地域であることがわかりました。知床や野生動物に関する学びを、残りの大学生活で行えたらと思います。また、知床や野生動物に関するイベントがありましたら、ぜひ参加したいと思います。貴重なお話を、ありがとうございました。

どの講義も興味深く、自分の今後の進路について考える良い機会となりました。野生動物保護管理に実際に関わる方々のお話をオンラインではありますが、直接聞いたことでこれからの問題や野生動物保護管理の多様なアプローチを学べたと思います。

今回のお話を聞いて、野生動物管理のあり方や人との関係性について深く考えさせられました。また、野生動物を扱う分野の人材育成についてのお話を聞き、これからどのような能力が必要とされるかを知ることができました。そのような能力を身につけることができるよう、これから意識をして過ごしていきたいと感じました。

講義内容に関しては十分に満足できる質・量が確保されており、参加して良かったと感じた。一方で、コロナ禍では難しいことではあるが、懇親会など各参加者の背景も知ったうえで自由に議論できる場がなくなってしまったことで、従来のネイチャーキャンパスよりは魅力が下がったようにも感じた。

このような大変な状況の中、オンラインでの開催を企画して下さいありがとうございました。講師のみなさまはじめ、知床自然大学院大学設立財団のみなさまに感謝申し上げます。オンラインでもたくさんの学びがありました。その反面、知床での実習が非常に魅力的であったことも再度実感しました。もし、可能であれば現地からの中継のような講義があると知床の雰囲気をもっと感じられるのかもしれないと思いました。

野生動物の保護管理に様々な観点で、最前線で取り組んでいる話を聞いて、学ぶことが多かった。また、受講生との質疑応答が活発であったため、そこから考えが広がることも多くてよかった。

大学卒業後、知床のその後が気になっていた為、とても興味深い内容でした。参加の機会を頂きありがとうございました。



知床自然大学院大学設立財団のおすすめ本紹介



しれとこのきょうだいヒグマ ヌプとカナのおはなし

あかし のぶこ 作・絵
公益財団法人 知床財団 (2008年) 1,650円

知床で生まれた兄妹ヒグマのヌプとカナ。大自然の恵みの中ですくすく成長しますが、ある日ヌプは人間が捨てたゴミの味を覚えてしまい、そこから2頭の運命が変わります。餌やりやゴミの不法投棄など、ちょっとした人間の行為が野生動物の一生を狂わし、目指すべき人と野生動物との共存関係にも支障をきたしていくことがよくわかる絵本です。10年以上前の発行ですが、現在もまだ知床の日常的な問題として、餌やりや不法投棄禁止の啓発が続けられています。深いテーマがある一方、知床在住の絵本作家・あかしのぶこさんが描くヒグマや知床の自然は生き生きと美しく、子どもから大人まで親子でも楽しめる絵本だと思えます。知床自然センター、羅臼ビジターセンターの他、知床財団のネットショップ「コムヌプリ」

(<https://www.shiretoko-komnupuri.shop>) で販売中です。
(事務局・竹川智恵)



これからの大学

松村 圭一郎 著
春秋社 (2019年) 2,090円

本書は文化人類学を専門とし大学で教鞭を執る松村圭一郎氏が彼自身の経験に立脚して執筆した大学論です。学びとはなにか、教育とはなにかを問いつつ、「これからの大学」を構想するにあたり「これまでの大学」がいかに様であったかが読み解かれています。

今日遍く普及する「知識」とはあくまで仮に構築されたものにすぎません。私たちが社会で生きていく上で——めくるめく速さで変容する現代社会においてはとくに——必要とされているのは、「知識」に精通していることではなく、自らの考えを導き出す能力、すなわち「知恵」を発揮することです。大学における学びとはそのような「知恵」を養うものであるべきだ、というのが松村氏の主張ですが、果たして大学はそのような役割を果たし得ているのか、そのことが各章を通じて問われていきます。

本書の議論の中心は大学教育ですが、その批判は現代社会の至るところで展開される広義の教育をも射程に捉えています。私たちは社会の諸場面で一体なにを学んでいるのか、あるいはなにを教育しているのか。昨今のシステム化された教育について、一旦立ち留まって見つめなおすことを本書は促すでしょう。(事務局・船木大資)

■ 計画策定専門委員会報告

第10回（2020年度第1回）計画策定専門委員会

開催日時：2021年3月11日（木） 10：00～11：30

開催方法：オンライン会議（Zoomによる）

出席委員 11名。

新型コロナウイルス感染症防止体制下での2020年度事業の状況を報告。今後の活動方針について、環境省や農水省が進める管理教育プログラム検討会によるコアカリキュラム策定の動きと連動するほか、独自のプログラム作成や単位認定等の教育体制づくりについて議論しました。また次年度事業について意見交換を行い、理事会への議論へつなげました。

■ 理事会報告

令和2年度（2020年度）第3回理事会

開催日時：2021年3月21日（日） 13：30～15：30

開催方法：オンライン会議（Zoomによる）

決議事項

1. 「令和3年度（2021年度）事業計画（案）承認の件
2. 「令和3年度（2021年度）収支予算（案）承認の件

報告事項

1. 代表理事・業務執行理事の業務執行報告
2. 賛助会員の加入状況・募金の状況
3. 「知床ネイチャーキャンパス・ネクスト」の開催結果報告
4. 道央圏の賛助会員・支援者対象イベントの開催結果報告
5. 「野生動物保護管理教育プログラム検討会」への出席状況について

協議事項

1. 次年度以降の事業展開と資金確保について

知床自然大学院大学設立財団は、 活動を支援して下さる **賛助会員、寄附金** を募集しています

当財団の事業は皆様から寄せられた浄財によって実施されています。何卒、一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、当財団は内閣総理大臣の認定を受けた公益財団法人です。当財団への寄附金・賛助会費は、特定公益増進法人に対する寄附金として税法上の優遇措置が適用されます。法人の皆様には損金算入限度額の優遇措置が、個人の方には所得税の税額控除（または寄附金控除）の対象となります。また遺贈も承っております。詳しくはホームページ、または当財団事務局までお問い合わせください。

■賛助会員とは

この財団の目的に賛同する個人・団体・法人が会費を通じて支援するものです。

■会員の年会費 ※年度ごとの納入となります。

個人会員：5,000円

団体会員：10,000円

法人会員：20,000円

法人特別会員：100,000円

■加入申し込み方法

「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます（入金は右記口座への入金でも受付しています）



知床自然大学院大学設立財団ホームページ

賛助会員・寄附金募集ページ

<http://shiretoko-u.jp/supporter/>

■賛助会員の特典

当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報をお送りします。

■寄附金について

寄附金も随時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

■税制優遇について

当財団への寄附金・賛助会費には税制上の優遇措置があります。

■主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号19940（普）10138691

（※他の金融機関から 店名九九八 番号1013869）

北洋銀行斜里支店 店番452（普）3119440

北海道銀行斜里支店 店番904（普）0530326

網走信金斜里支店 店番003（普）0284957

大地みらい信金羅臼支店 店番003（普）1072873

設立財団ニュースレター 第23号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10

TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773

E-mail sizendaigaku@wine.plala.or.jp

Web <http://www.shiretoko-u.jp>

発行日 2021年5月10日